radiko

災害時にはスマホでラジオ

防災ラジコ

FACTBOOK

【ファクトブック】

災害時にはスマホでラジオ

災害時に情報を得る手段として、スマホでラジオを聴くことの有用性が注目されています。
ラジオには、速報性、地域に根ざした細やかな災害情報、日頃から親しんでいるパーソナリティによる安心感など、テレビやネット、SNSにはないメリットがあります。
スマホでラジオを聴くことができるアプリ、ラジコは全国の民放ラジオ局、NHKラジオ、放送大学の番組を配信。ラジオやテレビのない外出先で災害が発生したときも、すぐに必要な情報にアクセスすることができます。
また、音声配信アプリであるラジコは、動画配信アプリに比べるとバッテリーとデータ通信量の消費が格段に少ないという大きなメリットがあり、災害時の利用に適しています。

災害は、いつ、どこで起きるかわかりません。今すぐにできることとして、ラジコをスマホにダウンロードして備えておくことをおすすめします。

01 災害時にはラジオ

ラジオは災害時の強い味方

災害時、身の安全を確保し、落ち着いて行動するためには、正しい情報をすばやく手に入れることが大切です。今、災害時における重要な情報源として、ラジオがあらためて注目されています。とくに、2011年（平成23年）に発生した東日本大震災では、テレビやSNSなど他のメディアと比べてラジオが高い評価を獲得しました。

東日本大震災で役に立ったメディア

1 震災発生時にもっとも役に立ったのはラジオ

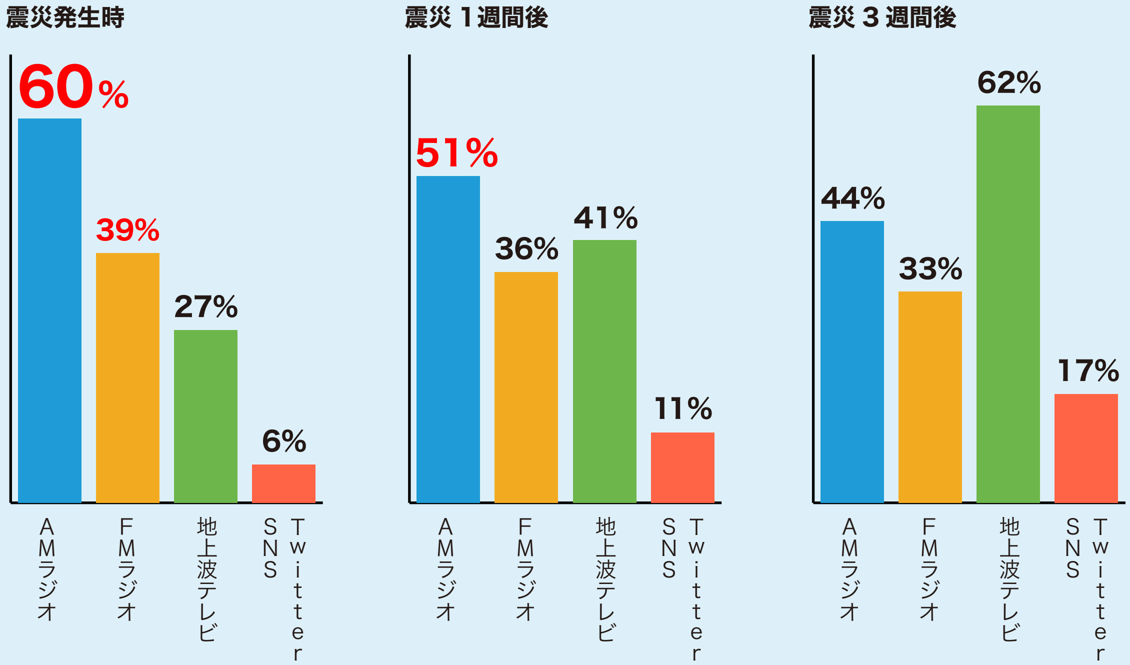
2 震災直後1週間もラジオの評価がトップ

総務省の調査（「平成24年版 情報通信白書」）によると、震災発生時は他メディアと比べてラジオがもっとも役に立ったと評価されています。AMラジオのスコアは60%を超えて1位、次いでFMラジオ（38%）が2位にランクイン。この結果は、震災直後、即時性の高い情報発信を行うラジオが、人々の主な情報入手手段であったことを表しています。震災直後1週間では、地上波テレビ放送の評価も高まりますが、やはりラジオが1位。震災の約3週間後になると地上波テレビ放送がラジオを上回ります。

東日本大震災発生時、人々からもっとも評価されたメディアはラジオ

東日本大震災に関する調査データから、緊急時の情報源としてラジオの存在感が大きいことがうかがえます。

震災時利用メディアの評価（時間別）



参照資料：総務省 平成24年版 情報通信白書

ラジオが発信する情報の特徴

地域に根差した詳細な情報

広域災害が発生した場合、全国放送のテレビでは災害の全体像を放送することはできても、各地域の詳細な情報まで伝えることは困難です。地元向けのローカルラジオ放送であれば、全国放送よりきめ細かな地域情報の提供が可能です。また、安否情報、避難所や給水所の速報など、災害発生後のコミュニティに欠かせない正確な情報をラジオは提供できます。

パーソナリティがもたらす安心感

ラジオは「この時間はあのパーソナリティやアナウンサーが話している」という日常性を備えています。災害時、多くの人が不安を抱いている時に、普段の放送と同じパーソナリティやアナウンサーが登場することで、人々に安心感や信頼感を与えることができます。

双方向型の情報発信

ラジオは、リスナーから届いた情報を交えながら、双方向型の情報発信を行うことが可能です。災害が発生した際、リスナーの生の声をラジオで取り上げることにより、各地域のリアルな被災状況を把握でき、離れたエリアに暮らすリスナー同士がラジオを介してお互いの地域の様子を知ることができます。

ラジオはなぜ災害に強いのか〜テレビとラジオの違い〜

メディアとしてのラジオの特性

音声のみの放送であるラジオは、テレビよりも番組の編成が容易であり、災害の状況に応じて臨機応変に対応することができます。また、テレビはザッピング（視聴者がテレビのチャンネルを頻繁に切り替える行為）されることが多く、災害時は同じ情報を繰り返し伝える傾向がありますが、ラジオでは行政が発表する公的な災害情報に加えて、番組の個性や放送エリアにあわせて様々な情報が提供されています。

端末としてのラジオの特性

家庭用電源が必要なテレビに対して、電池・手回し・ソーラーにより停電時でも充電でき、持ち運びができる「携帯性」の高さがラジオの特徴です。また、ラジオは購入しやすい価格の商品が多く、ライトやサイレンなど災害時に役立つ機能が付いている商品も増えています。万が一、避難所で生活を送る際も、ラジオを持っていれば必要な情報を手軽に取得することができるため、防災グッズのひとつとして備えておくことに適しています。

参照資料：田中孝宜（NHK 放送文化研究所） 東日本大震災報道 ― NHK の初動から 72 時間の災害報道を中心に―
参照資料：総務省 放送ネットワークの強靭化に関する検討会 日本大学文理学部社会学科 中森広道 メディアの特性から考える災害と放送の課題

番組制作者に聞く ①

ラジオはなぜ災害時に強いのか？　災害報道の制作現場の方々にうかがいました。

安心感をもたらすパーソナリティが届ける詳細な災害情報

株式会社 TBSラジオ 編成局 制作・情報部 ニュース統括編集長
とりやま じょう
鳥山 穣 さん

株式会社 TBSラジオ 編成局 制作・情報部
さわだ だいき
澤田 大樹 さん

鳥山穣さん / 2003 年入社。番組のディレクターやプロデューサーを経て現職。災害時は取材チームを編成するとともに自らも取材にあたる。
澤田大樹さん / 2009年入社。バラエティのADを経て報道記者に。東日本大震災の際には現地で 1ヶ月あまり仙台や石巻を中心に取材。

（写真左から）鳥山穣さん／澤田大樹さん

Q. 災害時におけるラジオの役割とは？

鳥山　災害が発生したとき、ラジオがすべきことは、**聴いている人の命や財産を守り、一秒でも早く日常に戻れるように情報を届けること**だと思います。政府や自治体の公的な発表を伝える一方で、被災者に向けた細かい情報も提供することがラジオの大切な役割だと考えています。

Q. 災害時の情報源としてラジオならではの強みとは？

澤田　災害時、テレビは同じ映像の繰り返しが多く、得られる情報が意外と少ないことがあります。停電や断水は映像として伝えにくいのです。そうした、**テレビが報じない様々な詳細情報を、求めている人に向けて発信できる**のもラジオにできることのひとつです。

鳥山　レコメンドされた情報を選択する Webニュースと違い、**リスナーが選ばない情報が耳に入ってくるのもラジオのいいところ**です。「そういう被災地もあるんだ」とリスナーに気づきをもたらすことができるように心がけています。

澤田　**リスナーの声を反映できるのも、テレビにはないラジオの強み**です。「自分のまわりは、こんなことになっている」というリスナーからの情報を、パーソナリティという日常の声を通じてラジオから届けていく。**いつものパーソナリティがいつもの声で情報を伝えることが安心感や信頼感を生む**と思います。

鳥山　なにかしてほしいという被災地の声に対して、遠くの地域の人たちから力をもらえるよう、人々をつなげるのもラジオの得意領域です。

Q. 災害・防災における、今後のラジオの展望とは？

澤田　限られたスタッフや、映像を使うことができないなど、ラジオ制作には様々な制約があります。でも、それを生かして、ほかのメディアの隙間を埋めていけばいいと考えています。ラジオはSNSとの親和性が高く、ラジコという存在も強みです。**新聞やテレビができないことに取り組みながら「TBSラジオのパーソナリティが言っているから本当なんだな」と信頼されるメディアであり続ける**ことが大切だと思います。

鳥山　まずは、**何か災害が起きた時に、ラジオが選択肢となること**が重要です。今は、災害時の有効な情報源としてラジオが存在することを知らない人もいます。そうした人たちの選択肢に入るように、ラジオとして、普段からの積み重ねを続けていきたいです。ラジオもラジコも、もっと普及してほしいと思います。

02 「スマホでラジオ」の兆し

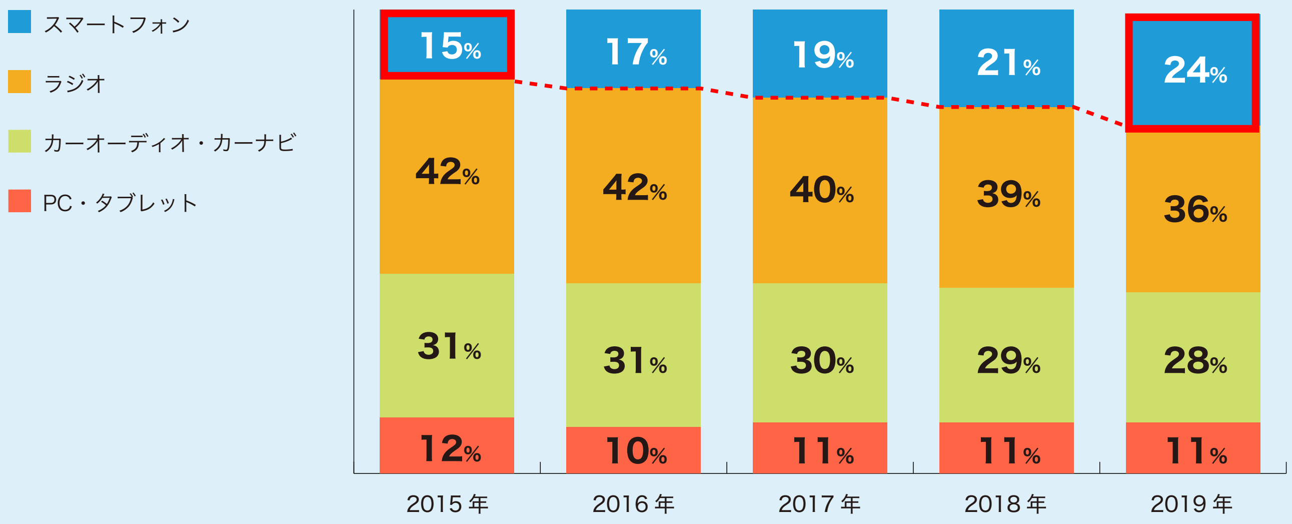
radiko

20～30代はすでにスマホでのラジオ聴取がメイン

スマホでラジオを聴く人は、年々増加しています。年代別にみると、スマホでラジオを聴取している人は 20 代が最も多く、30 代がそれに続きます。今後は、さらにスマホでラジオを聴くことが一般的になると予想されます。

スマホでラジオを聴く人が年々増加

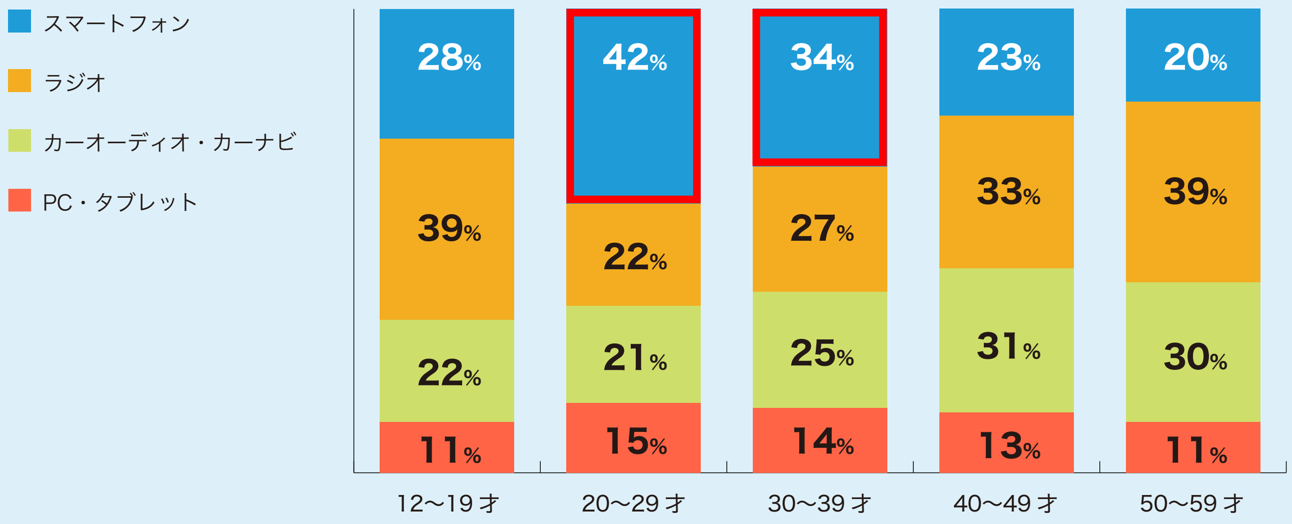
ラジオ聴取機器構成の推移（12～69 歳）



参照資料 : ビデオリサーチ 首都圏ラジオ個人聴取率調査（2015 年 4 月～ 2019 年 4 月）

20 代と 30 代はスマホでラジオを聴く人がもっとも多い

年代別のラジオ聴取機器構成（2019 年 4 月時点）



参照資料 : ビデオリサーチ 首都圏ラジオ個人聴取率調査（2015 年 4 月～ 2019 年 4 月）

北海道胆振東部地震におけるラジコ利用状況

2018年（平成30年）9月6日、午前3時7分に発生した北海道胆振東部地震（最大震度7）では、道内･道外問わず、多くの人々がラジコを利用していたことがうかがえます。

道内ラジコユーザーは
地震発生後 30 分間が通常時の 27倍に

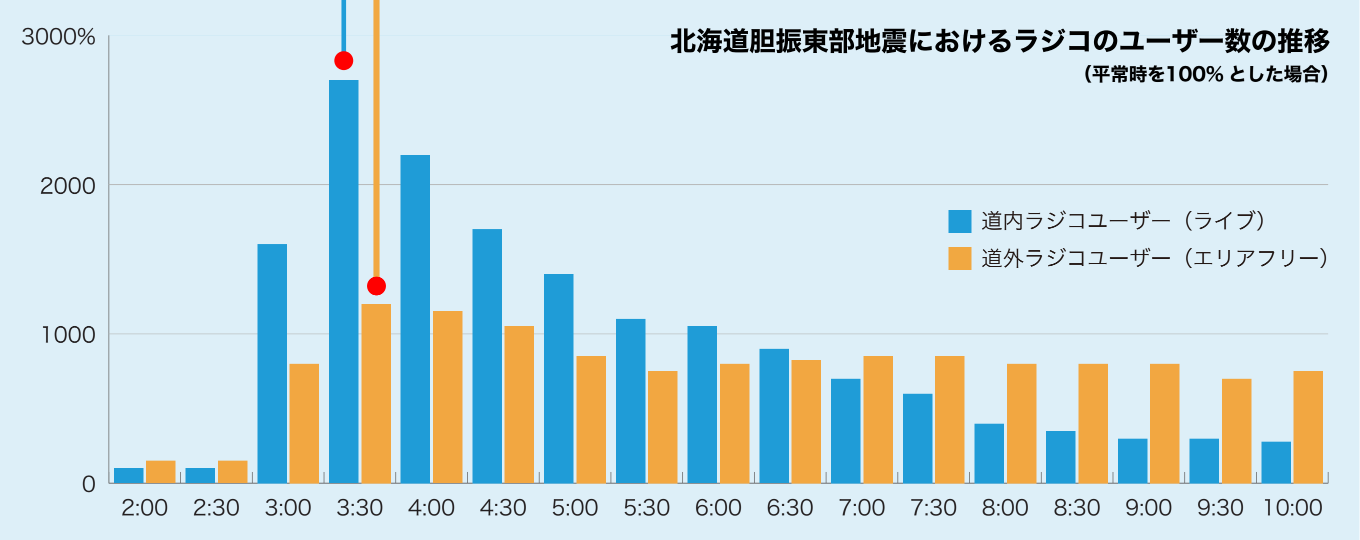
午前3時7分の北海道胆振東部地震発生後、道内のラジコユーザーが増加し、午前3時30分～4時の30分間がピークとなりました。ピーク時には、平常時の約27倍のラジコユーザーがラジオ放送を聴取したことになります。

道外ラジコユーザーは平常時の 12倍に
時間が経過しても小さい減少幅

道外からエリアフリー※で聴取したラジコユーザーも、ピーク時で約12倍増加。道外から聴取するラジコユーザーは、時間が経過しても減少していない点も特徴です。

※ 通常のラジコ（無料・放送エリア内聴取）と異なり、プレミアム会員になると日本全国のラジオ局を聴くことができるサービス（有料・放送エリア外聴取）。

北海道胆振東部地震におけるラジコのユーザー数の推移
（平常時を100% とした場合）



参照資料 : 株式会社 radiko プレスリリース / 9 月 1 日「防災の日」を前に、北海道胆振東部地震のラジコ利用状況を開示

NHK ラジオの実証実験においても、災害時に訪問者数が増加

NHKでは、2018年度の1年間、ラジコのウェブサイトおよびアプリを通じて、NHKのラジオ番組を実験的に配信し、年間を通じた利用の変化や、台風や地震などの自然災害時の利用動向の調査を行いました。その結果、ラジコを通じたラジオ第1の提供では、台風や豪雨、地震など災害時に、顕著な訪問者数の増加が見られました。利用者からは、「何かあったとき、防災関係の情報を確認するのに NHKラジオに切り替えられることが利用者にとってとてもいいこと」「今後ラジコでも放送がずっと聴けるようになればいい」等の意見があり、NHKでは 2019年4月より、正式なサービスとしてラジコを通じたラジオ第1とFMの提供を開始しています。

参照資料 : 日本放送協会 (NHK)「ラジオのメディアとしての有効性等についての周知活動の一環で行ったラジオ放送番組提供 2018年度の成果について」

番組制作者に聞く ②

radiko

災害時のラジオの有用性とこれからについて、制作現場の方にうかがいました。

大規模な災害時、安心と安全を届ける最後のライフラインがラジオ

株式会社ニッポン放送 コンテンツプランニング局 報道部 副部長

えんどう たつや
遠藤 竜也 さん

1995年入社。営業、報道、制作を経て2016年より現職。現場時代は国会を主に、日韓ワールドカップやアテネオリンピックなど国際的なスポーツ大会の報道・制作などを担当。現在は報道情報番組を中心に、現場にも足を運ぶ。

Q. 災害時におけるラジオの役割とは？

「災害時にメディアはなにを届けるべきか」と考えるとき、**ラジオは、安心と安全を届けることを念頭に置かなくてはいけない**と思います。

例えば、2019年の台風15号や19号で、被害の大きかった千葉県を取材した際には、多くの方に「ラジオがあってよかった」と声をかけられました。誰もが想定しなかった大規模な停電で、テレビも見られないなか、電池ひとつで聞けるラジオの強みが出たのだと思います。**安心と安全を届ける最後のライフラインがラジオ**。すべてがダウンしても、ラジオがあればなんとか情報が届けられるということを実感しました。

Q. 災害時の情報源としてラジオならではの強みとは？

千葉県で発生した大停電では、「うちが停電している」「停電が復旧しました」など、随時状況を送ってくださるリスナーが多数いました。**リスナーが記者の一員としてニッポン放送に情報を寄せてくれた**、という印象が今でも強く残っています。双方向のやり取りが生む、ラジオならではのプラスの部分だと思います。

テレビは、ヘリからの空撮による浸水や決壊などインパクトある映像が多いです。過激な映像が多く、それが、さらに動画としてネット上で拡散されます。しかし、その映像が、実際に被災している人が欲しい情報とは限りません。その点、**ラジオは映像が第一ではありません。**映像がないからこそ、必要な情報を正確に、しかも分かりやすい言葉で届け続けていくことを、ラジオは続けるべきだと思います。

Q. 災害・防災における、今後のラジオの展望とは？

ラジオ全体で災害報道の信頼性を上げるためには、協力と分担が必要になってくると思います。今、首都圏のラジオ局とライフライン各社は、協力して防災訓練を行っています。災害発生時にラジオ局とインフラ各社がリアルタイムで情報を共有するという試みです。**今後はSNSなども活用しつつ、各局、各社で協力しながら、このネットワークをさらに進化させていく必要があります。**

また、災害時に常に感じるのは、地域に密着した情報を提供し続けるローカル局の素晴らしさです。こうした**ローカル局とキー局による横断的な取材や報道**も考えていかなくてはいけないと感じています。

人の命を守るという視点で考えると、ラジオも重要なインフラです。そういった意味でも、放送局や企業間の連携は、今後の重要な課題になると考えています。

03 「スマホでラジオ」の有用性

radiko

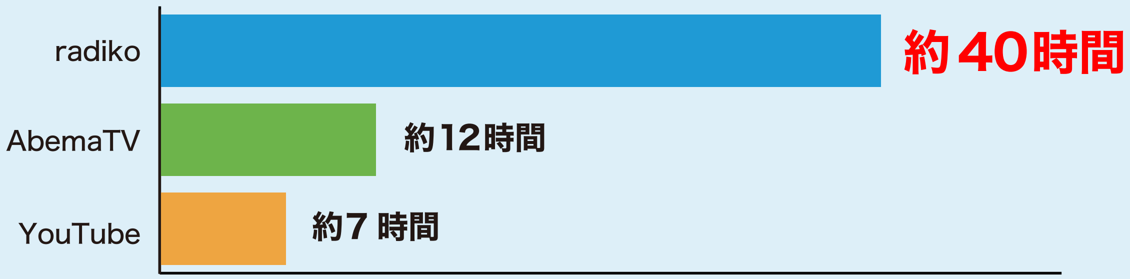
調査機関のデータで実証された「スマホでラジオ」が有用な２つの理由

ここでは、株式会社角川アスキー総合研究所が実施したスマホ向けアプリケーションのデータ通信量とバッテリー消費量の調査（「主要コンテンツ配信アプリの通信量／バッテリー消費量調査」）をもとに、「スマホでラジオ」の有用性を検証しました。バッテリー駆動でインターネットに接続できるスマホは、停電時や外出時の情報取得ツールとして注目されていますが、使用するアプリによってバッテリーの消費量は大きく異なります。また「ギガ不足」という言葉があるように、スマホの通信量が契約プランの上限を超えてしまい、通信速度制限に悩むといった声も多く聞きます。調査結果によると、音声配信アプリのラジコは、他のアプリと比べて「バッテリー」と「データ通信量」の消費が少なく、災害時の情報源として適していると言えます。

１：最大で約40時間バッテリーが持続

スマホでアプリケーションをどれだけの時間使い続けられるか調査した結果が下のグラフです。動画配信アプリよりもラジコのほうが、圧倒的にバッテリーが長持ちします。

動画配信・音声配信において満充電で再生し続けられる時間　※ iPhoneXS Max の場合

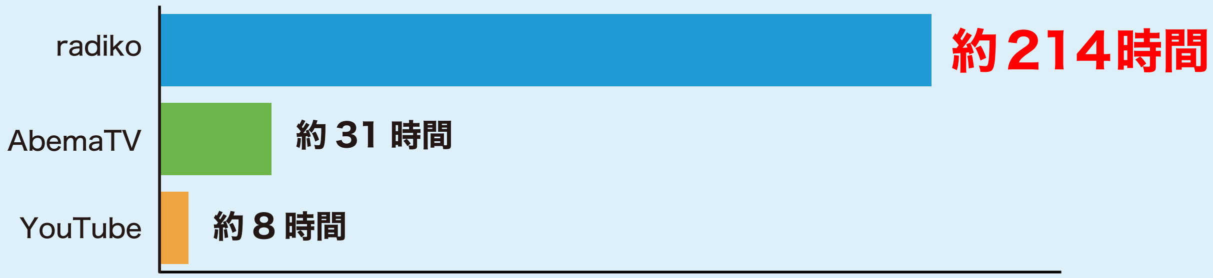


参照資料：角川アスキー総合研究所　主要コンテンツ配信アプリの通信量／バッテリー消費量調査

２：通信速度制限に達するまで約214時間聴取可能

携帯事業者の料金プランとして標準的な上限 7GB のプランで、月々の上限値に達するまでの時間を算出した結果が下のグラフです。動画配信アプリと比べてラジコはデータ通信量の消費が少なく、長時間の聴取が可能です。

動画配信・音声配信において容量 7GB に達するまでの再生時間　※ iPhoneXS Max の場合



! 通信速度制限に達してもラジコは標準設定のまま視聴可能

参照資料：角川アスキー総合研究所　主要コンテンツ配信アプリの通信量／バッテリー消費量調査

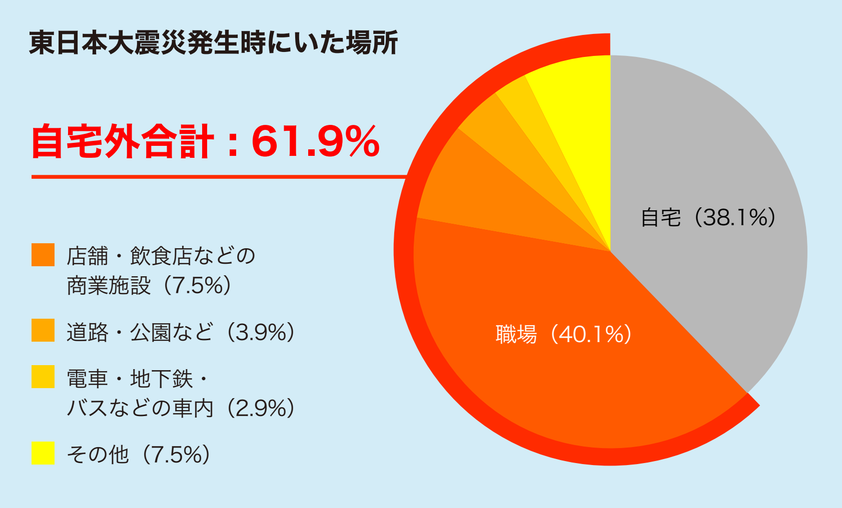
ラジオの情報にスマホからすぐにアクセスできるラジコ

近年は、ラジオを所有していない世帯も少なくありませんが、ラジコを使えばスマホでラジオを聴取することが可能です。スマホは「携帯性」に加えて、「停電時のアクセスのしやすさ」も備えています。外出先で災害に遭遇した際も、スマホでラジコを利用すれば必要な災害情報をすぐに聴取することができます。

東日本大震災の発生時は、約６割が自宅外に

実は、東日本大震災の発生時、半数以上の人が自宅外にいたことがデータから明らかになっています。それらの人々の多くは、ラジオやテレビなどの情報源にすぐにアクセスできない状況だったと推測できます。

いつ発生するかわからない災害に備えて、いつも持ち歩いているスマホにラジコを入れておくことが、大きな安心につながります。



参照資料：東京都生活文化局 消費生活部生活安全課調べ

ラジコとFM放送の両方でラジオが聴けるスマートフォン

ラジスマ

https://radisma.com/

HYBRID RADIO

ラジコとFM放送の両方でラジオが聴ける、ラジオチューナーを搭載したスマホが「ラジスマ」です。状況に合わせてラジコとFM放送を使い分けられるラジスマは、インターネットに接続できない状況でも、FM波が受信できればラジオを聴くことができるため、災害時にも心強い存在です。

※ ラジコで聴取できるラジオ局のうち、FMラジオ局と「ワイドFM（FM補完放送）」を提供しているAMラジオ局が対象

ラジコの魅力

- 電車でも安定的に聴ける
- エリアフリー聴取機能
  今いる地域以外のラジオ局を聴取可能
- タイムフリー聴取機能
  過去１週間以内の放送をさかのぼって聴取可能

FM放送の魅力

- ネット環境がなくても聴ける
- パケットを使わない
- 音の遅延がない
- 高品質音源

04 専門家の声

災害時における情報収集について、防災の専門家にうかがいました。

必要な情報を正しく取得することで、災害時の被害は確実に小さくできる

京都大学名誉教授　**河田 惠昭（かわた よしあき） さん**

京都大学名誉教授、関西大学社会安全研究センター長・特別任命教授、人と防災未来センター長。東日本大震災復興構想会議委員。災害分野における第一人者として知られ、「減災」「縮災」という言葉を提起。災害が起きることを前提として建物の耐震・防火化から避難訓練、復興準備までをあらかじめ行うべきという文理融合型の防災・減災を主張。学会賞や功労賞の受賞数も多く、国連により1986年に創設された防災分野のノーベル賞「SASAKAWA防災賞」を2008年に受賞。

研究では、地球温暖化の進行や地震・火山活動の活発化により、今後、**ますます災害が多発し、被害が大きくなる時代を迎えることが予想**されます。例えば豪雨が続いた場合、川の氾濫や住宅の浸水、地下鉄や地下街の水没、海面より低い地域の広域におよぶ水没など、様々な恐れが想定されます。

こうした大型の災害が発生したとき、どのような行動をとるべきか。まず、**被害の発生前、直後そして発生後に必要な情報を、身近なメディアから取得することが必要**です。その情報をもとに対応すれば、被害を確実に小さくできるはずですし、それを知らなければ、逆に危険な状態にさらされることになります。

災害時の情報源としてさまざまなメディアが存在しますが、特に、**スマホでラジオが聴けるラジコは、バッテリー消費やデータ通信量の観点から、災害時において優位**なサービスではないでしょうか。例えば台風の上陸が予想される場合も、長時間にわたり、どのようなことに注意すべきか事前に情報を取得できます。そして、台風上陸後〜移動中は、各被災地のラジオ放送局から、何が起こっているか連続的かつ幅広く知ることができます。ラジオ / ラジコを通じてこのような情報を取得することで、災害の被害は少しでも小さくできるはずです。

災害の被害を小さくするために、事前に知っておきたい大切な情報

洪水の場合

① 大雨警報は出ているか？
警報が出ていたら、道路は冠水している可能性があるため外に出ると危険です。

② 運転は控えるべきか？
豪雨時の冠水や水没など、カーナビからは危険な道路の情報を得ることができないため、注意が必要です。

③ 今いる家は安全なつくりか？
平屋住宅は水害に弱いなど、住宅の構造を事前に把握しておくことをおすすめします。

地震の場合

① 避難指示・勧告は出ているか？
地震で被災した住宅は余震で全壊する恐れがあるため避難所に行くことが安全です。

② どのくらいの時間、揺れたか？
1 分以上揺れが続くと、津波が来る可能性が高いです。

③ 防災グッズは整っているか？
地震直後は、停電・断水が発生し、通信不能、スーパーから食べ物がなくなるなどの問題が生じる可能性も。

今できることとしてラジコ

災害発生時や災害直後において、ラジオは多くの人に利用されています。地域に根ざした即時的かつ正確な情報の提供、日頃から馴染んでいるパーソナリティがもたらす安心感、リスナーからの情報と双方向型コミュニケーションなど、ラジオならではの特性が主な理由と考えられます。

同時に、外出先などで手元にラジオがない場合、多くの人がラジコを通じてラジオの災害情報を得ていることも明らかになりました。音声配信アプリであるラジコは、動画配信アプリよりもデータ通信量とバッテリーの消費が格段に少ないというメリットがあります。
また、エリア外からも聴取できるエリアフリー、聞き逃してしまった番組を後から聞けるタイムフリーなど、災害時にも活用できる機能を備えています。

災害時に有用なラジオを、いつも持ち歩いているスマホで聴取できるアプリがラジコです。
いつ起きるか分からない災害に備えて、今できることとして、ラジコをダウンロードしておくことをおすすめします。

ラジコのダウンロードはこちらから

参考資料一覧

総務省 平成 24 年版 情報通信白書
http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h24/html/nc131110.html

田中孝宜（NHK 放送文化研究所）
東日本大震災報道　― NHK の初動から 72 時間の災害報道を中心に―
https://www.nhk.or.jp/bunken/book/media/pdf/2014_12.pdf

総務省 放送ネットワークの強靭化に関する検討会 日本大学文理学部社会学科 中森広道
メディアの特性から考える災害と放送の課題
http://www.soumu.go.jp/main_content/000224825.pdf

株式会社 ビデオリサーチ 首都圏ラジオ個人聴取率調査

株式会社 radiko
プレスリリース / 9 月 1 日「防災の日」を前に、北海道胆振東部地震のラジコ利用状況を開示
http://radiko.jp/newsrelease/pdf/20190830_001_pressrelease.pdf

日本放送協会（NHK）
ラジオのメディアとしての有効性等についての周知活動の一環で行った
ラジオ放送番組提供 2018 年度の成果について
https://www.nhk.or.jp/pr/keiei/otherpress/pdf/20190828.pdf

株式会社 角川アスキー総合研究所
「主要コンテンツ配信アプリの通信量／バッテリー消費量調査」
https://www.lab-kadokawa.com/release/detail.php?id=0092

東京都生活文化局　消費生活部生活安全課
平成 23 年度ヒヤリ・ハット調査「非常時（震災時）の危険」
https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/anzen/hiyarihat/documents/taiken_sinsai.pdf